



# 京大生物学教室 2021



**01** 前編 6月4日(金) 後編 6月25日(金)

## チンパンジー研究者、 母になる

—進化の視点から発達を科学する—

林 美里 京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・  
リーディング大学院 分担者  
中部学院大学教育学部子ども教育学科 准教授

**02** 前編 7月1日(木) 後編 7月22日(木)

## ヘリウムを吸った ワニとサルから見る 音声コミュニケーションの進化

西村 剛 京都大学霊長類研究所 准教授

開催時間 各回/18:00~19:30

受講料 前編・後編 1セット:3,000円(税込)、一括申込(全4回):5,400円(税込)  
※後編からのお申込の場合は、前編は見逃し配信にてご覧いただくことになります。予めご了承ください。

対象 どなたでも(専門的な内容が含まれるため高校生以上を推奨します)

ホームページよりお申し込みください。 <https://www.kyodai-original.co.jp/open-academy/program/?no=25>

詳細は  
コチラ



オンラインセミナー 申込締切日 各回、開催日の前日  
※申込締切日を過ぎてのお申込みについては、見逃し録画配信のみご視聴いただけます。

主催 京大オリジナル株式会社 共催 京都大学産官学連携本部

問合せ 京大オリジナル株式会社 ナレッジプロモーション事業部  
mail:kensyu@kyodai-original.co.jp

## 京大生物学教室 オンライン(Zoom)開催 (ライブ配信+見逃し録画配信)

- パソコンなどの端末、ネット環境が必要です。
- クレジットカードで決済いただいた方には、視聴方法について開催前日までに申込時のご登録アドレスにご連絡いたします。
- kensyu@kyodai-original.co.jpからのメールを受信できるように設定してください。
- ライブ配信後、後日、オンラインサイト上で録画配信します。(視聴には申込が必要です。2021年9月末まで視聴可能)
- お支払いはクレジットカードのみとなります。その他のお支払い方法は承っておりませんので、ご了承ください。

# 京大生物学教室 2021

京都大学の生物学は、今西錦司に始まるフィールド・ワークをベースにした伝統ある「マクロ生物学」と、1960年代にいち早く分子生物学を導入した先進的な「ミクロ生物学」の2つの柱を中心に、100年以上に渡り最先端の研究を推進してきました。現在は、理学研究科生物科学専攻として、動物学系、植物学系、生物物理学系の3系に加え、霊長類学・野生動物系（霊長類研究所・野生動物研究センター）の4系として、総合的な研究・教育活動を行っています。

「京大生物学教室」は、そのような京大生物学研究の成果と知見を、生物学に深い興味をお持ちの方や学び直したいとお考えの方、自らの進路の参考にしたいという大学生や高校生の方に、お届けしようとするものです。

今回の生物学教室は、生物の神秘と不思議を2名の講師から2日間に渡りたっぷりお届けする連続シリーズです。1人目の林美里先生からは、チンパンジーとヒトの子どもの発達を比べる研究からわかる進化の視点からの心の発達について、2人目の2020年イグノーベル賞\*（音響学）を受賞した西村剛先生からは、生物にヘリウムを吸わせる実験でわかった生物の声の進化について講義いただきます。

※イグノーベル賞 (Ig Nobel Prize) とは、1991年に創設されたノーベル賞のパロディで、「人々を笑わせ、そして考えさせてくれる業績」に対してさまざまなカテゴリーで授与されます。

01

前編 6月4日(金) 後編 6月25日(金) 18:00~19:30

## チンパンジー研究者、母になる -進化の視点から発達を科学する-

林 美里

京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院 分担者  
中部学院大学教育学部子ども教育学科 准教授

専門 比較認知発達

ヒトにもっとも近いチンパンジーなどの大型類人猿を研究し、ヒトの子どもの発達と比べることで、進化の視点から心の発達を調べることができます。飼育下と野生の双方で大型類人猿の発達を研究することで、子どもの育ちを支える親子関係や社会関係も見えてきます。進化的基盤を知ることで、ヒトの発達や育児について見つめ直すヒントをご紹介します。



02

前編 7月1日(木) 後編 7月22日(木) 18:00~19:30

## ヘリウムを吸ったワニとサルから見る 音声コミュニケーションの進化

西村 剛

京都大学霊長類研究所 准教授

専門 自然人類学

ヘリウムガスをご存知ですか。私たちがこのガスを吸うと、Donald Duckのような変な声になります。その音声の変わり方をしらべると、音声をつくるしくみがわかります。サルたちがこのガスを吸うと、どうなるのでしょうか。爬虫類のワニやトリ、両生類のカエルでは、どうなるのでしょうか。ヘリウム音声実験からわかった生物の声の進化を紹介します。

